

## 鶏卵生産の持続可能性を模索する留学

自然科学研究科 山田 将慶

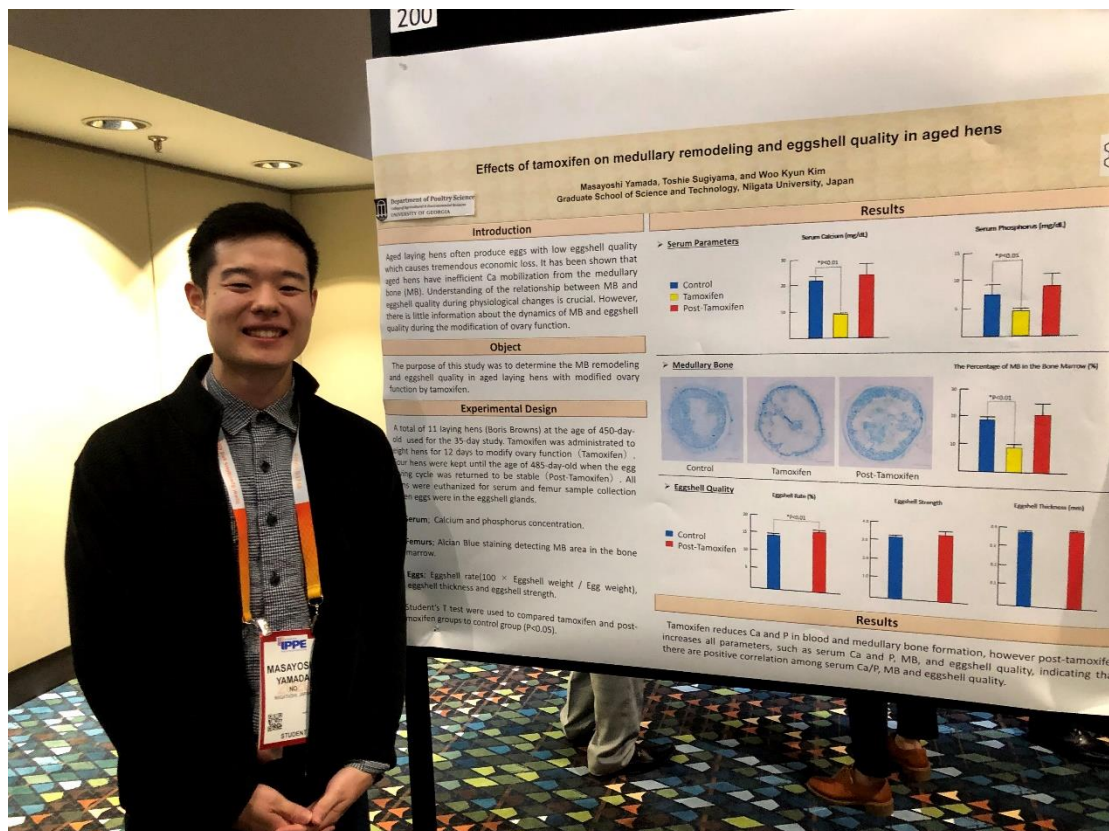
私は農学を学ぶ中で、養鶏産業における経済的損失に問題意識を持った。身近な食品である“卵”には、日本だけで年間約 400 億円の経済的損失がある。原因は、卵殻が柔らかい卵が、集卵・水洗・輸送などの過程で壊れてしまうからだ。また、鶏の経済寿命は短いので畜産資源の持続的な活用という点でも課題がある。そして、専門家としてこれらの課題を解決する研究者という仕事は、私の中で目標となった。

そこで、アメリカ合衆国で先端的な知見や技術に触れることはもちろん、研究者としての在り方や考え方を学びたいと考えた。実際には、ジョージア大学で 8 カ月間の研究活動と民間企業で 1 週間程度のインターンシップに参加した。ジョージア大学は、養鶏が盛んな地域であることを背景に家禽の研究が進んでいる。私は、日齢に伴う産卵鶏における骨代謝の変化というテーマで研究活動を行った。また、IPPE という学会でポスター発表も行った。アメリカの学会では、内容の客観性や論理性のほかにプレゼンスキルも問われた。誰もがわかりやすく見やすい発表を心掛けたことで、英語力やプレゼンの構成力が向上した。インターンシップでは、多国籍な研究員が在籍するチームで腸内細菌の調査および分析を行った。自分が畜産にどのような立場で関わっていくかを考えることができ、今後の進路の参考になった。

アメリカでの生活に、不自由はなかった。ジョージア州の夏は長く、半年以上を夏服で過ごした。留学期間中は、学生寮に滞在し留学生と交流を深めることができた。食事面では、中華料理、イタリア料理やメキシコ料理を基本に外食することが多かった。また、日本食店も展開されており、ラーメン店や寿司店もみかけた。多くの学生は、大学のカフェテリアやカフェで食事を済ませていた。ジョージア州は基本的に自然が豊かであるが、州都アトランタはオフィスビル群が並ぶ都会だ。そこには、有名なコカ・コーラ社の博物館や世界的にも大きな水族館があるので観光もおすすめできる。

トビタテ！留学 JAPAN には、日本文化を発信する“アンバサダー”という役割がある。私は、アンバサダーとして卵をつかって日本食文化を発信した。具体的には、ルームシェアしている学生に対して日本料理（お好み焼き・卵焼き）を一緒に調理しながら、日本食文化の奥深さを伝えた。そこでは、味覚の多様性を目の当たりにし、相手の価値観を認める大切さを知った。日本人独特の「うまみ」や「だし」などの概念を相手に説明するときに、相手に伝えようとする姿勢や言語化能力が向上した気がした。

留学期間中には、成功だけではなく孤独感や挫折感を味わった。一方で、これらを乗り越えるための創意工夫、逆境に打ち勝つ自信を身に付けることができたと自負している。どんな状況下でも物事を遂行できる自信や発想は、今後の人生をより豊かにしてくれると考える。



国際学会（IPPE）でのポスター発表の様子



観光で訪れた州都のアトランタ